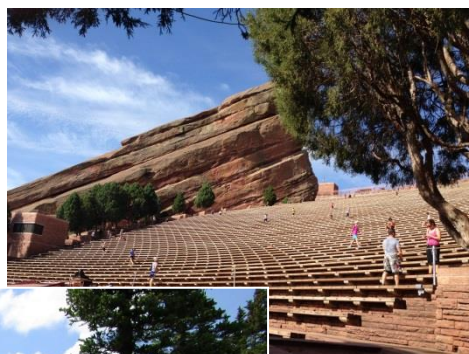
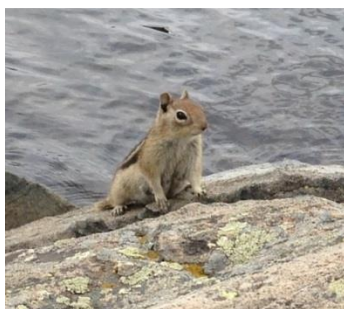




コロラドスタディツアー2014

(7月25日～8月6日)

実施報告書

(公財)出羽庄内国際交流財団

目 次

中高生コロラドスタディツアー／社会人のためのコロラドスタディツアー

■ はじめに.....	2
■ スタディツアー 日程表.....	3
■ デンバー地図.....	4
■ 日記(参加者が分担して、日々の出来事について記録).....	5
■ 参加者によるツアー全体報告書.....	26
・北楯 優さん (庄内町立立川中学校 1年)	
・齋藤 樹さん (鶴岡工業高等専門学校 4年)	
・細渕 里久子さん (社会人参加)	
・石田 久美子さん (社会人参加)	

はじめに

(公財) 出羽庄内国際交流財団では、2008 年より「中高生コロラドスタディツアー」、翌 2009 年より「社会人コロラドスタディツアー」を実施してきました。今年で 7 回目を迎えたツアーには、中学生 1 名、高専生 1 名、社会人 2 名の、合わせて 4 名が参加し、7 月 25 日から 8 月 6 日までの約 2 週間、山形県と姉妹県州の関係にあるアメリカ・コロラド州で様々な異文化体験をしてきました。

このプログラムは、コロラド州の人たちとの交流を通して国際的感覚を体験的に身につける、英語実践力を向上させることなどを目的としています。雄大な自然の中でのアクティビティ、語学学校での英語学習、コロラドの一般家庭に滞在するホームステイ。事前に 2 回ほど研修会を行い、コロラドへ行く為の準備をしてきたとはいえ、英語のみでのホストファミリーとのコミュニケーションや慣れない環境に、最初は不安そうだった参加者の皆さんでしたが、コロラドの人々の温かい受け入れにより、この約 2 週間、積極性を持って各プログラムに参加することができました。帰国した後に、皆さんが感じる自分自身の変化は、何事においても自信を持って取り組む事ができるようになったことだと言います。

今年も参加者全員「コロラドに来て良かった」と、数々の素晴らしい体験ができたのは、現地でこのプログラムの支援をしてくださる皆さんのおかげです。毎年全体プログラムの調整と現地の同行をしてくださる村治孝浩さん、ホストファミリーの調整や連絡を担当してくださったジム・キダーさんとバネッサ・トランさん、ホストファミリーの皆さん、コロラド日米協会の皆さん、英語教育機関のスプリング・インスティテュートの先生方、在デンバー日本国総領事館の皆さん、コロラド・ユース・イン・アクションの皆さんに、心から感謝申し上げます。

参加者の皆さんがこのプログラムを通して得たものが、この報告書にまとめられています。今後、当財団のコロラドツアーへの参加を検討されている方にとっても、この報告書が参考になればと思います。

2014 年 11 月

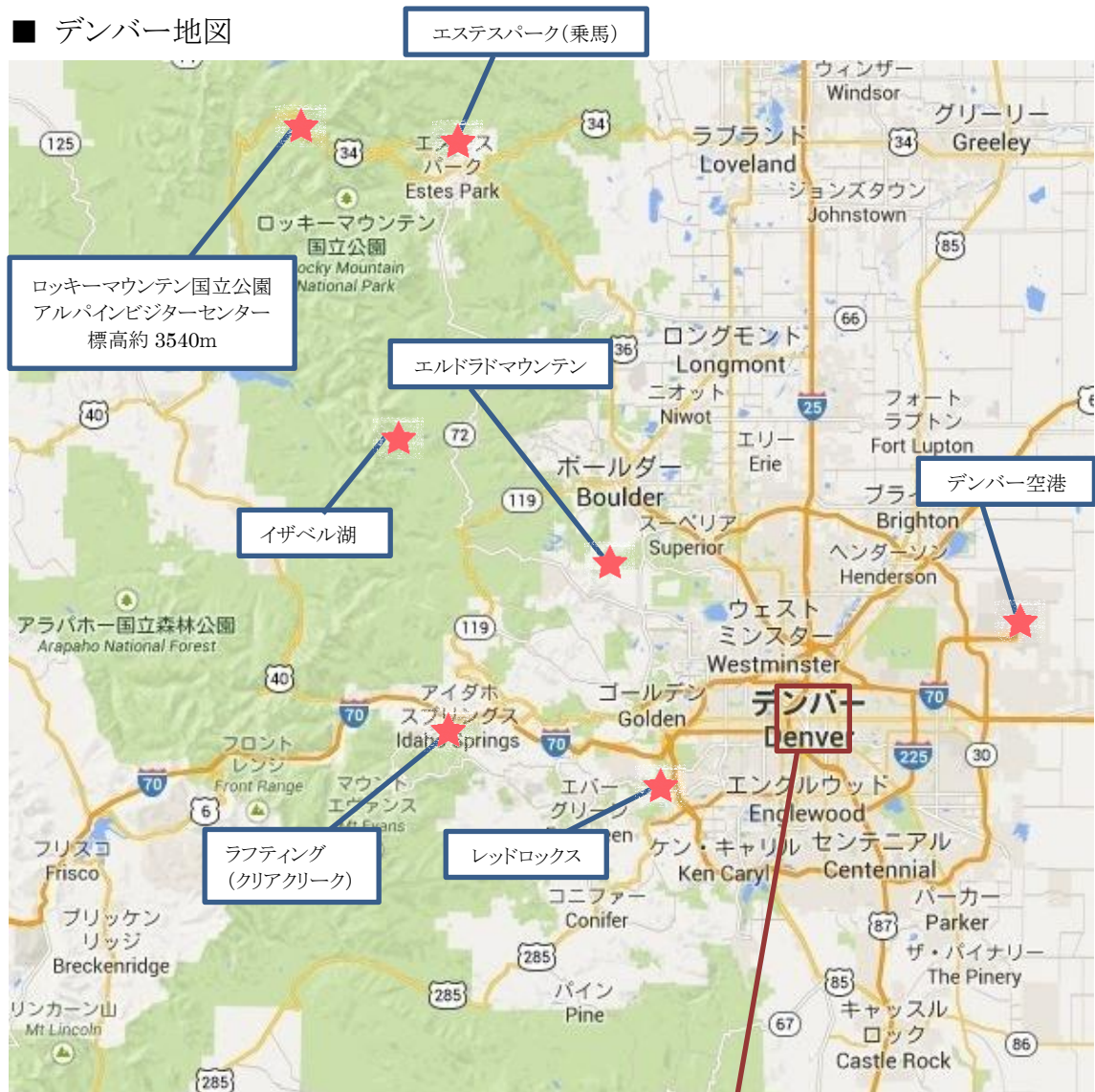
■ スタディツアー 日程表

・期間 2014年7月25日(金)～8月6日(水) 13日間

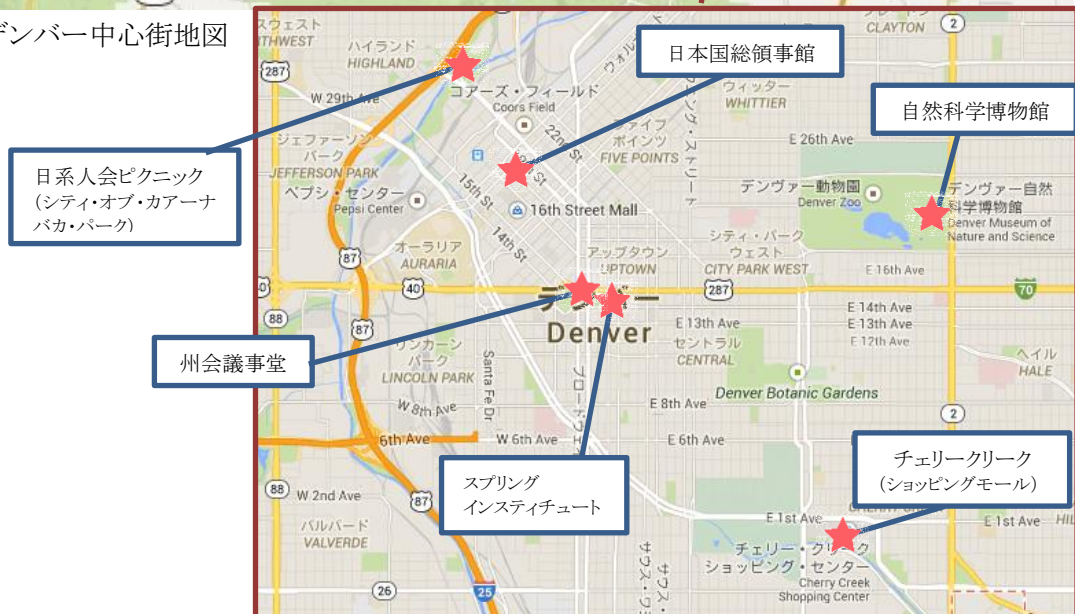
・日程

月 日	時 間	訪問先など	備考
7/25	8:50	庄内→羽田	
	17:00	成田空港 出発→	日本から直行便で移動
	12:50 ※現地時間	コロラド・デンバー空港着	
		コロラド州会議事堂見学	
	17:00	ウェルカムBBQパーティー	各ホストファミリー宅へ移動
7/26	終日	イザベル湖ハイキング	
7/27	終日	ホストファミリーデー	
7/28	10:00	デンバー自然科学博物館	
	14:00	スプリング・インスティテュート	英語学習(1回目)3時間
7/29	11:00	エステスパークで乗馬	
	13:00	ロッキーマウンテン国立公園	
7/30	11:00	クリアクリークでラフティング	
	14:00	近くの町でショッピング	レッドロック&ダイナソーリッジに行く予定だったが、雨天の為変更。
7/31	10:00	デンバー 日本国総領事館 訪問	
	13:00	スプリング・インスティテュート	英語学習(2回目)3時間
8/1	09:30	コロラドユースインアクション・メンバーとダウタウン探索	
	13:00	チェリークリークでショッピング	ショッピングモール、スーパーマーケット、チョコレート専門店など
8/2	終日	ホストファミリーデー	
8/3	10:00	日系人会ピクニックに参加	芋煮(しょう油、味噌)200人分をふるまい、花笠踊りを披露
	15:00	ホストファミリーデー	
8/4	8:30	レッドロック	※7/30に予定していたもの
	10:00	スプリングインスティテュート	英語学習(3回目)2時間
			修了式
	13:00	ボールダー市観光	仏教センター、エルドラドマウンテンなど
8/5	15:30	デンバー空港 出発→	直行便で移動。12:40発の予定が2時間飛行機が遅れる
8/6	18:00 ※日本時間	成田空港 到着	
	20:10	羽田→庄内	最終便

■ デンバー地図



■ デンバー中心街地図



出発日 7月25日

(細渕 里久子)

成田空港を17時30分に離陸したユナイテッドUA138機は一路デンバー空港へ。そして日本時間の朝4時、現地時間25日の午後1時に無事に到着しました。飛行機から見たデンバーは茶色い平原が広がっていました。そしてまた昨日の午後を迎え、なんだか得したような気分でした。



デンバーはからりと晴れて暑かったです。いよいよアメリカに足を踏み入れる期待感で胸が高鳴ります。空港にはデンバーでお世話になるタカさんこと村治さんとスプリンググインスティチュートのジャン先生が迎えに来ていました。今回私を含め4人の参加者と出羽庄内国際村の阿部さんとタカさんとでさまざまなプログラムをこなして行きますがまだこの時点で私たちを襲う(!?)さまざまな出来事は知る由もないのんきな私たちでした・・・。

Town Roadを走ってダウンタウン(中心街)へ向かい、午後2時コロラド州会議事堂に行きました。純金で覆われたドームが目を引きまします。建物もこの周辺で採れるレッドオニキスがふんだんに使われとても豪華でした。タカさんから簡単なコロラドの歴史を聞きました。インディアンがゴールドラッシュの人たちや移住する白人たちによって土地を取られたことや、バッファローが600万頭いたのが乱獲によって100頭あまりに一気に減ってしまったことなどを聞きました。

午後5時過ぎホームステイ先のひとつトラン家でのバーベキューパーティーにみんなで参加しました。まず最初にびっくりしたのは超豪華な自宅です。後々何回も感心することになるこの辺の住宅事情に本当に圧倒されました。そしてこれからお世話になる私のホストファミリー、テイラー家の家族も来ていました。”えーと・・・初対面のあいさつは？自己紹介は？”私の頭の中はパニックでした。ポークの焼き肉、サラダ、スパゲッティ、クッキー、スイカ、ビール、レモネードなどなどすごいごちそうだったのに興奮に加え時差ボケもあったせいでしょうか、ほとんど食べずじまいでした。・・・残念！！

午後8時にテイラー家に着き、お土産を渡し持っていった写真を見せ今夜はそのままベッドに直行でした。 長い長い一日でした。



7月26日（晴れ） デンバー滞在2日目

（石田 久美子）

小学校教員グループと合同のアクティビティ＜イザベル湖ハイキング＞

午前九時、昨夜WELCOMEパーティを開いてくれたYさんのホストであるトラン家に集合。タカさんの運転で いざ！イザベル湖へ。

コロラド州は、日本の本州と九州を合わせた面積があり、人口は約500万人。西側に北米大陸の背骨とも言われる標高4300m級のロッキー山脈が迫り、東側はグレートプレーンズと呼ばれる広大な大地がどこまでも続いている。

ロッキーの豊かな自然や、途中通過するボルダー市の説明を聞きながら、車窓からの雄大な景色に見とれる。「あっ、プレーリードッグがいるよ」両手を胸の前に揃えて立つ姿に、思わず頬の筋肉もゆるむ。一匹しか見つけられなかったけれど、かなりの数で生息していると言う。他にも運が良ければエルク、コヨーテ、キツネ、あらいぐま、スカンク等に出会えるらしい。

イザベル湖へのハイキングコースは、コロラド州立公園の中にあり海拔約2000m、5Kmの行程になる。さすがアウトドアのメッカだけあって、駐車場に入るのに渋滞して時間がかかった。ハイカーはもちろん、マウンテンバイクの人も多く見かけた。



道路の側で草を食むムース

なんと、帰り道でも2頭のムースに出会いました

歩き始めて10分、何やら人だかり。道路のすぐ側でムースが草を食んでいる。野生のムースは中々の迫力がある。タカさんでもこんなに間近で見るのは初めてのこと。昨日、ダウンタウンからトラン家に向かう車中、みんなで虹を見つけて、「明日はきっと何かいいことがあるね。」と言ったのは、このことだったかも・・・。」

気を良くして歩き始めるも、高所なので酸素が薄く、すぐに息が上がって苦しくなる。少し頭痛もする。高山病の兆候なのだろう。この先5Kmも歩けるのだろうかと不安になる。涼しい風を受けながら、あちらこちらに群生する高山植物を眺め、何度も休み、ゆっくり登る。州花のコロンバインを見つけた。白と薄紫のコントラストが爽やかな花だ。途中、小さな湖と美しい針葉樹の山を背景に記念写真を撮る。



コロラド州花

ロッキーマウンテン・コロンバイン

タカさんに「あともう少し」「あれが最後の岩場」と励まされて、息も絶え絶えに登りきると、ロッキーマウンテンの懷に抱かれたイザベル湖が現れた。

“Breathtaking” とは正にこのこと。こんなに雄大で美しい景色は見たことがない。「頑張った甲斐があったね」皆の笑顔がそう語っている。景色を堪能し、遅いランチを食べてから下山する。

このツアーで最年長の私は、何とか皆さんに遅れをとらずに歩ききってホッとした。それにしてもこの道中、かなりの高齢と思われる方々がリュックを背負い、颯爽と歩いている姿に何度もすれ違った。子供連れも多く、子供を負ぶって歩く人もいた。＜自然を愛してやまず、健康志向が強い。オーガニックがもてはやされ、全米でも肥満率の極めて低い州＞・・・納得です。



イザベル湖にて 心臓破りの岩場を越えて・皆の笑顔

7月27日 デンバー滞在3日目

(北楯 優)

<ホストファミリーデー>

この日は「ホストファミリーと1日ずっと一緒に過ごす」ということで、私は「ああ、ずっと英語なのか…。」と、心配していましたが、そんな心配も忘れてしまう位楽しい1日でした。

私は、前日にホストファミリーデーはこれをするよ、と教えてもらっていました。その話の中で興味を持ったのは、「タイダイシャツ作り」でした。日本ではあまり身近なものではないので、「どうやって作るんだろう？」と思っていると、バネッサが「タイダイキット」的な物を見せてくれました。「え？こんながあるのでけっこう身近なものかなあ？」とおどろいたのを覚えています。

最初に、私が楽しみにしていたタイダイシャツ作りをしました。この日はトビアスとアンジェリーナのいとこのジェニーが来ていました。好きな柄を言うと、手ぎわ良くゴムでTシャツをしぼってくれます。私は自分用にハート柄とスパイラル柄、お母さんにハート柄を作りました。そめ方は、それぞれの色の粉に水を入れてその色水を好きなようにTシャツに付けていきます。思っていた以上に簡単で、楽しかったです。



次にピザを作りました。生地から作っていて、「すげー本格的!!」とびっくりしました。しかも、作っているのはお父さんのジェイコブ!!エプロンをして…なんかカッコイイな、うちのお父さんもエプロンをして焼きそばとか作ったりしないかな…。とか変な事を考えていたら、もっとおどろくことができました。家にピザを焼くかまがあるのです!!「えー!家にあるの-?!」と、とてもびっくりしました。

ジェイコブが作ったピザを焼いている間に、アンジェリーナとカップケーキをデコレーションしました。クリームフレーバーはプレーンとチョコで、私はプレーン、アンジェリーナはチョコを担当。楽しくデコレーションしているとハプニングが!アンジェリーナの手がすべったのかチョコクリームがああ形になってしまいました!!こういう時、文化はちがっても同じ事を考えるんだ、と感じました(笑)



ランチにみんなで作ったピザとカップケーキを食べました。とてもおいしかったです。

「ずっと英語で大丈夫かなあ」と心配していたけど、楽しめて良かったです。

7月28日 デンバー滞在4日目

(北楯 優)

デンバー自然科学博物館は、時間が無くて、見たかったマヤ文明のところは見れませんでした。その分、ミュージアムショップでおもしろいお土産が買えました。そのお土産は、マグネットなのですが、なんと「ゾウのふんで作った紙」のマグネットなんです!! これはおもしろいな、と友達用にしました。(帰国して、プレゼントしたら、大ウケでした。)

私は、展示物を見ている時、タカさんに言われた事が興味深かったです。それは、キリスト教徒は人間の進化論を信じないという事です。「え?じゃあ学校で習わないの?」「習うんだとしても、もし先生がキリスト教徒だったら?」と、たくさんの疑問がうかびました。これが文化の違いか、と感じました。



午後からは、スプリング・インスティテュートで英語の授業でした。この日が初めてのスプリング・インスティテュートでした。最初、緊張気味でしたが、ミニゲームで緊張がほぐれました。ミニゲームは楽しかったし、英語の勉強になって良かったです。学校の授業だったら長いと感じる3時間も、あっという間に過ぎてしまいました。

この日はインドアな日でしたが、十分楽しめた1日でした。



7月29日（曇り一時雷雨） デンバー滞在5日目

（石田 久美子）

＜乗馬＞＜ロッキーマウンテン国立公園＞

今回のツアーで私が一番楽しみにしていたアクティビティ、乗馬体験の日がやって来た。以前、岩手県の小岩井農場で乗ったことがある。一周50mもあっただろうか。ほんの一瞬の体験だったが、自分の目線の高さが新鮮で、馬と一体になり上下に揺れながら歩く快感を覚えている。

タカさんの運転でボルダー市の北、ロッキー山脈の麓に佇む町、エステスパークに向かう。標高は2300m、富士山5合目の高さに相当するという。

今回は1時間のトレイルライドが予約されていて、熟練したトレーナーと良く訓練された馬が待っていた。雲行きが怪しくなる中、一人ひとり馬の名前を聞きながら順番に馬にまたがる。「進め」「止まれ」「右へ」「左へ」等の簡単な操り方の説明を受けて、いよいよ出発だ。4345mのロングスピークを横目に、トレーナーを先頭に、一列になってトレイルロードを進む。

同時に雨が落ちて来た。最初は小降りだったので、木立の中を縫いながらのんびり楽しんでいたが、だんだん雨脚が強くなり、雷まで鳴り始めた。山の上から谷筋に沿って茶色い水が流れて来る。馬が落ち着かなくなってきた。トレーナーがストップをかけ、一同びしょ濡れで木立の下にかたまる。寒さで歯がカチカチしてきた。

何分くらい立ち往生していただろうか。少し小降りに変わった頃合いに、トレーナーが戻る判断をした。命からがら（チョッとオーバー？）RANCHに着いたら雨が上がった。

バスタオルを貸してもらい、身なりを拭き、気を取り直して次の目的地であるロッキーマウンテン国立公園を縦走してアルパインビジターセンターを目指す。車内に暖房を入れてもらって、ホッと一息ついた。

アルパインツンドラは樹木の生長スピードが遅く 3 倍の時間を要すること、ロッチポール松は松かさがヤニで覆われていて、山火事が起きると種が弾けて根付くこと等の説明を聞きながら、どんどん登って行く。車窓からの眺めが素晴らしい。すぐ横に見える山々が4000m級とは思えない。

ビジターセンターに到着。標高3500m、気温8度。お土産屋さんあり、カフェあり、たくさんの観光客でごった返している。お土産選びは楽しい時間だ。

帰り道にエルクの集団を見た。途中のフォレストキャニオンも息を呑むスケールだった。写真を撮ったが、「こんなじゃなかった・・・」写真では到底伝えることが出来ない。

五日目も無事？終了した。ハプニングは美味しい！

いつかこのツアーを振り返るとき、真っ先に思い出すのは、雷雨の中、進むことも、戻ることも出来ずに途方に暮れたあの時間のはず。



ラナハンRANCH



エルクの角
雄だけが持ち、春に生え冬には抜け落ちる。



Yちゃん、
初めての体験にわくわく、どきどき

この後びしょ濡れになろうとは夢にも思っ
ていませんでした。

トレイルリッジロードをどんどん登って行
きます。ダイナミックな景色を写真で伝
えることは残念ながら出来ません。



7月30日 デンバー滞在6日目

(北楯 優)

この日は前日に引き続き雨で、少し肌寒かったです。天候が悪く、「こんな中でできるの？危ないんじゃないの？」という気持ちがありました。でも実際やってみると、楽しくて危ないとか、そんな事は考えてませんでした。大きな石にぶつかりそうになったり、とても急な流れのところがあってびしょびしょになったりして、スリル満点でした。だけど、終わると、ぬれたところが冷たくなって、とても寒かったです。

午後からは、レッドロックス&ダイナソーリッジの予定でしたが、雨でショッピングに変わりました。ショッピングでは、アンティークのお店、チョコレートのお店など、たくさんのお店を見ることができて楽しかったです。チョコレートのお店では、キャラメルアップルという、リンゴをまるまる使ったチョコレートがあって、「食べてみたいなあ…」と思ったけど、お腹がいっぱいで食べるのをあきらめました。結構、後悔しています(笑)

ラフティングでは、雨でかなり寒かったけど、とても楽しかったし、レッドロックス&ダイナソーリッジは本当はすごく行ってみたいかったけど、ショッピングもそれはそれで楽しむことができました。でも、やっぱりダイナソーリッジ、行ってみたいです…。



7月31日 デンバー滞在7日目

(齋藤 樹)

まず午前中にデンバーにある日本国総領事館という所を訪問しました。総領事館内は日本風になっていて、英語の話せる日本人の方々が在米していました。今回は小学校の先生方とも一緒に訪問し、会議室のような部屋でお話を聞きました。今回はどうしても総領事の都合が合わないということで、領事の山口さんが総領事館やコロラドについて紹介してくれました。総領事館ではコロラドにいる日本人に安全を提供しています。事故やパスポートの紛失などよりもテロによる被害を警戒しているそうです。「総領事館」など我々学生身分には全く接点の無かった言葉でしたが、そのような仕組みが海外にも置かれているという事を知れて良い経験になったと思います。



午後は2回目のスプリングインスティテュート授業でした。本日はエルサルバドルから別のプログラムでスプリングインスティテュートに来ている方々も数名いて、一緒に授業を受けました。そこでペアになったマーリーベルさん(33)は世界共通となった英語を勉強するために母国に子供を置いて来ているそうです。授業内容は、様々な形、大きさのブロックを組み合わせて、相手がそれを見ないで同じものを再現するというものです。1回目の授業で行ったアクティブリスニングというものに似ていて面白かったです。



スプリングインスティテュート終了後、デンバー市内を散歩。美術館やら何やらと色々回って今日は終了！



8月 1日 デンバー滞在8日目

(細渕 里久子)

ツアーも後半戦です。1日1日がとても大切でいとおしく感じられます。そして私たちを襲ったさまざまな出来事(!)は他の人たちの日記で明らかになったことと思います・・・。そしてまだまだ続きますよ～！

さて今日はジョアン原田デーということで一路 highlands に向かいました。9時半にジョアンがいる教会に到着。彼女はとても気さくで初めての私たちを暖かくもてなしてくれました。彼女はちょうど別のプログラムの最中だったので今日は今年の6月に日本を訪問したばかりの5人の男の子たちと半日を共にすることになりました。



ジョアン原田さん



ダンテ君とマット君

まずバスでダウンタウンに出かけデンバーのにぎやかな通り 16TH ストリートに向かいました。5人の中ではダンテ君だけが日本語が少しわかるくらいなので、彼らとにぎやかに談笑というわけにはいかずちょっと気まずい雰囲気もありました。だけどマット君が日本のアニメや漫画が好きということがわかり我らの優ちゃんといろいろ情報交換をしているようでした。16TH ストリートではすごい行列になってるところがあり、ダンテ君に聞いてもらったところ今日はコロラドデーということだったのですが、5人ともコロラドデーって何？と知らなかったのがおかしかったです。



午後からはタカさんの車でチェリークリーク買い物ツアーに行きました。まずは初めての本格バーガーということでタカさんお勧めのスマッシュバーガーをいただきました。ん〜っ！お肉が自家製でおいしかったです。有名なチョコレート屋さん、オーガニックな食べ物満載の WHOLE FOOD 店などなど、今日1日でだいぶお土産のリストは減りましたね。



スマッシュバーガーいただきます！

テイラー家ではジム・キダー一家(あのジムさんです)をお招きする準備が着々と進められていました。ろうそくが庭のあちこちに灯り、優しい音楽が流れ、最初にお出しするサラダが用意され、・・・これ全てだんなさんのマッシュが準備しました！・・・アメリカの一家族の日常が垣間見れるのは本当にホームステイの醍醐味だと思います。もちろんバーベキューで鳥丸ごと2羽も焼いてましたよ・・・。



8月 2日（晴れ） デンバー滞在9日目

（石田 久美子）

＜ホストファミリーデー＞

アルビー家には8泊滞在させて頂いたが、都合により今日からステイ先が変わることになった。細やかな心遣いで温かく迎えて頂き、別れる時には、知っている限りの感謝の言葉を、うるうるの目で伝えた。

午前中はトラン家のお世話になる。朝食はホストファザーが自慢のパンケーキを焼いてくれた。その後、バネッサ、アンジェリーナ、Yちゃんと4人でターゲットというディスカウントスーパーとコストコという会員制倉庫型ショッピングセンターに連れて行ってもらった。カートが日本の4～5倍の大きさで、お菓子の袋は大きな枕と同じ位のサイズがある。商品が天井までうず高く積んである様は壮観の一言。バネッサはホストのベテランなので、私たちの喜ぶツボを熟知している。



トラン家にて朝食中

午後は、今晚から最終日までYちゃんと二人で滞在させて頂くことになったケニー家に移動する。まずはお家のグランドツアー。ベースメントありの二階建て。きれいで、広くて、モダンで・・・ホストマザーのスティシーがインテリアデザイナーだったので、完璧なまでに美しい。「羨ましいです」といったら、「維持するのが大変なのよ」といわれた。

その後、ホストファザーのマット、スティシー、二人の子供たちと一緒にメキシコ料理の店にランチに連れて行ってもらってYちゃんとタコス注文した。

マットはダウンタウンにオフィスを持つ会計事務所のボス。いつも穏やかな笑顔で子供達を見守りながら、ゆっくり後からついて来る。



今晚からお世話になるケニー家と一緒にメキシカンランチ中

夕方、近くの公園で開催されているピクニック・パーティに連れて行ってもらった。生バンドの演奏が響く中、たくさんの人が芝生に座り、食べては話し、話しては飲み、子供達はフラフープや風船で遊び、それぞれの時間を楽しんでいる。I君とホストファミリー、トラン家も集まり夏休みの計画など、話している。

豊かな自然に抱かれ、豊かな時間を過ごす。なんて素敵なライフスタイルだろう。



ピクニック会場

今日も一日、ホストの温かい心遣いで充実した時間を過ごすことができた。

通過する旅行とは違う、ホームステイならではの貴重な体験でした。

8月 3日 デンバー滞在10日目

(齋藤 樹)

<日系人会ピクニック>

今日は小学校の先生と共同で芋煮を作って地元の人々に振る舞います。そこには様々なアジア料理がありました。日系人といっても英語を話せる日系人、英語しか話せない日系人がいて驚きました。ユースインアクションのメンバーやホストファミリーで来てくれている人もいました。芋煮は好評で、全部無くなりました。自分もおそらく内陸の芋煮を食べたのは初めてでしたが、どちらも美味しかったです。

なんやかんやらあって芋煮が終わったら花笠を踊りました。花笠などほとんど見たこともなくただついでの練習でしたが、ここで花笠を身につける事ができたのは案外良かったなと思えなくもありません。山形県民なら皆踊れると思われても困りますが、それは逆の場合でもいえると思うので、外国人への固定観念の持ち方も少しは考えるべきだと思いました。



花笠が13時頃終わり、ピクニックの終了は15時頃の予定だったのですが、自分は今日ホストファミリーが遊園地に連れて行ってくれるという話を受けていたので、3回目のホストファミリーデーという感じで勝手ながら遊園地に出かけました。大好きな絶叫系多めの遊園地だったのでとても面白かったです。でも聞くところによると、15時まで残って片付けをしたのはタカさんだけだったそう。お疲れ様です。。。

8月 4日 デンバー滞在11日目

(細渕 里久子)

とうとうアメリカ最後の日！ 天気も上々です。あと1か月ぐらい居てもいいなと思うのは私だけでしょうか。今日1日をとにかく楽しみましょう！ということでまずはレッドロックスへ。

予定では6日目のラフティングの日にレッドロックスでしたが、例(!)の雨のために行けずじまいでした。そして今日、1時間出発を早め9時に到着。広大な景色の中に6億年から6000年前の地層が重なった赤い巨大な岩山がどんと広がっています。開拓時代の名残もあり当時に思いを馳せ、幌馬車に乗ってるローラ・インガルスなどが頭をよぎります。またここは天然の音響効果が素晴らしい有名なコンサート会場でした。とにかく大きな赤い岩を何枚も写真に撮りました。



レッドロックスにて

10時から昼まではスプリングインスティテュートで最後の授業を受けました。列に横入りする人への柔らかな忠告というのを実際にロールプレイングで順番で演じましたが、つい感情が入ってしまいオーバーアクションになってしまいました。授業はこのように体を使ったり、ゲームなども交えて楽しく学ぶことができました。今日は修了式もあり前に一緒に授業を受けたエルサルバドルの人たちも来てくれました。ジャン先生の上司のバーナ先生は最後にどうかまた何回でも来てそして自分で感じたアメリカのことを日本の人たちに伝えて下さいとゆっくり話してくださいました。ジャン先生の暖かい笑顔と楽しい授業はいつまでも記憶に残るでしょう。



スプリングインスティテュート修了式

午後からは最後のショッピングツアー、ボルダー市へ出発。ボルダーはお金持ちの白人が多く住む独特な雰囲気を持つ町で、仏教センターなどもあり瞑想やヨガなども盛んなところだそうです。実際私たちもヒマラヤのシェルパ族のレストランでカレーを食べたりしてボルダーっぽい雰囲気を満喫しました。もちろん買い物も・・・。

帰路エルドラドマウンテンに立ち寄り最後のジャンプ！タカさんご苦労様でした。



そして私の最後の大きな仕事、ホストファミリー宅で日本食を作りました。メニューは手巻きずし、唐揚げ、てんぷらでしたが、あろうことにマシュー家の前に住む元すし職人（日本人！）のご夫婦まで呼んでの会食になりました。ご飯はなべで炊いて、天ぷらはどれで揚げたらいいの？などなど盛大に洗い物を増やしながらも何とか完成！皆おいしいと食べてくれました。アメリカ最後の夜は楽しく更けていきました。・・・だけど疲れました・・・。

8月 5日～6日 デンバー滞在12日目～日本

(齋藤 樹)

< 帰 国 >

朝9時頃ステイシーさん宅に集合し、お別れをしました。その後デンバー国際空港に
出発し、昼12時頃日本へ出発。の予定だったのですが、飛行機が遅れて14時出発にな
りました。空いた2時間でアメリカのお菓子をたくさん買って手荷物がいっぱいになり
ました。

飛行機が飛び立ってコロラドの広大な平地が見え
るようになると、初日は始めてくる場所への期待
があった景色が、知っている場所になっているよ
うな気がしました。次にデンバー国際空港を訪れ
るときはもっと親しみを持って違う目線で観光で
きると思います。



帰国の飛行機からは地球の丸みを見る事ができ、国内でも世間は狭いなど感じる機会
があるように、地球の狭さを体感することができました。

日本に着いて一番感じたことは、湿度が高いことでした。懐かしさはあるもののよく
今までこんなところにいたなと思えるほど蒸して気持ち悪く感じました。国土が少ない
ので道路も家も狭く、正直生活環境に関しては日本よりコロラドの方が好きです。ただ
当たり前ですが、買い物やバス乗車時など全てが日本語で通じる事は久しぶりの感覚で、
嬉しく思いました。

自分の場合、コロラドへ行ったとき
は時差ボケがありましたが、日本へ
帰るときは時差ボケがほとんどありま
せんでした。

◆皆さんお疲れ様でした。◆



成田空港にて

コロラドスタディツアー2014 報告書

庄内町立立川中学校 1年 北楯 優

私はこのツアーで、「やっぱりもっと英語勉強しなきゃな。」と、改めて感じました。もう少し勉強してたら、自信が持てただろうし、もっとホストファミリーのことを知れたと思うからです。そんな英語が未熟な私に対して、ホストファミリーはとてもあたたかく、まるで本当の家族のように接してくれました。初日のBBQの時、私はアンジェリーナにいっぱい質問されたのですが、全くわからず、しずこさんがいないと泣き出してしまいそうでした。（実際涙目でした。）BBQが終わって、バネッサが、「エイゴガンバッテ!!」と応援してくれました。次の日から、バネッサが少しずつ単語を教えてくれて、とてもうれしかったです。こんな風に、私をサポートしてくれたし、私の英語をがんばって理解しようとしてくれて本当にうれしかったです。私がホームシックになったりしなかったのは、ホストファミリーのおかげだと思っています。本当に感謝しています。



ツアーは13日間という長いようで短い期間でしたが、コロラドをよく知ることができたし、大好きになりました。そうなった…のはタカさんのおかげだと思っています。タカさんは、コロラドのことを日本と比べて説明したり、とてもくわしく案内してくれました。私が庄内を案内しても、そんな風に、楽しく、くわしく案内することはできないと思います。

そんなとても楽しいツアーで、絶対忘れられない思い出があります。それは、『乗馬』と『ラフティング』です。今まで、このツアーに参加した人達が経験したことがないよ

うなことを経験できたからです。それは、どちらのアクティビティも、どしゃぶりで、とても寒かったことです。このような天気は、珍しいそうです。そんなどしゃぶりの中でやった乗馬は、楽しかったけど、途中で、馬も進みたくなる位の雨風になって、その時は、かなり寒かったのを覚えています。ラフティング



は、「本当にできるの？」というような天気でしたが、やってみるととても楽しく、スリル満点でした。でも、ウェットスーツをぬぐと、かなり寒かったです。この寒かったけど楽しかった2つの思い出は、きっと絶対忘れることはないと思います。

私は帰りぎわ、ずっと「また来たい!!」と言っていました。また行ける日は、来年かもしれないし、もっとずっと先かもしれません。だけど、その日までには英語をペラペラにしようと心に決めています。このやる気をくれたのは、このツアーでお世話になったホストファミリー、タカさん、ジャン先生、一緒にツアーに行った4人のおかげだと思っています。本当に感謝しています。私にとって、このツアーは自分を大きく変えたものでした。



コロラドスタディツアー2014 報告書

鶴岡工業高等専門学校 4年 齋藤 樹

元々の志望動機は、なんとなくホームステイがしたかったことと、リスニング力がほしかったこと。将来海外に行きたいとは思っていたので、まずは無難な路線ということに申し込んでみました。インドア、アウトドア共に適切な割合で疲労がひどすぎたという日はほとんどありませんでした。人生初の時差ボケを体験できたのは嬉しかったけど、そのため初めのうちはなかなか大変でした。

ホストファミリーに関しては、2家族にお世話になり、どちらも付き合いやすく良い感じの方々でした。基本的に昼間のアクティビティ中は日本語で、夜帰宅したら英語という形で、英語に慣れていない自分としてはやりやすかったように思います。



アメリカでは、車が左ハンドル、右側通行だったり、子供どうしがペラペラの英語で話していたり、すんごく当然であるはずの事にたくさん驚きました。日本では絶対に体験できないような生活に触れることができたととても面白かったです。また、

環境、治安も良く過ごしやすかったので、金さえあれば毎年の夏を向こうで過ごしたいと思います。

今回のコロラドスタディツアーでは、ほぼ初めての海外生活、ホームステイを体験することができ、海外に知人ができたことが最大の収穫です。期間が短かったというこ

ともあり、英語力の向上につながるものは小さかったように感じますが、英会話はなんとかなるもんだと知りました。アメリカでの生活では、英検、TOEIC 等で普通に出てくる単語は滅多に使われておらず、日本での英語資格のための勉強は実用英会話には無意味であると感じました。



以上、様々な観点から得られたものがあり、初めての海外旅行がこのツアーで良かったと思います。

欠点としては、仕方ないこととはいえ、費用が高いのと、期間がやや短い点です。

コロラドスタディツアーに参加して

社会人参加 細渕 里久子

去年も友達とアメリカ行きを計画してた。しかも行先はコロラド。直前になって私は行けなくなり、彼女は一人旅を決行。そして失意のまま半年が過ぎたころ、ある公民館の片隅に”コロラドスタディツアー参加者募集！”のチラシがあった。私の10年有効のパスポートの取得は2008年、アメリカに行くためだったが、以後実現はしなかった。そして2014年アメリカは現実になった。

70年代後半、当時読んでいた月刊誌には生き方の一つとしてアメリカのライフスタイルが紹介されていた。文化や思想は自然に私の中の一部となった。最初にデンバーの街並みを見たとき、本物の建物や看板、英語の文字がそこにあるということだけでうれしかった。夕暮れ時のガソリンスタンドの明かり、ちょっとさびれた感じのモーテル、広々とした道路を太い材木を積んで疾走するトラックなどなど、私が映画や写真で見てきたのがまさにここにある。なんだかそれだけでも満足な私だった。・・・そしてホームステイという一大イベントも待っていた。

私のホストファミリーのテイラー家は17歳、11歳の女の子がいる4人家族で、夫婦は二人とも大学教授だ。立派な家々が並ぶ住宅地の一画のステキなお宅だった。会話はなんとか通じたが、こちらの意見をきちんと伝えることがまず大事だなと感じた。何回かパーティーや友達との会食に行った時もみんな気軽に話しかけてく



朝の散歩

れたが、もう少しつつこんだ話もできたらなと強く思った。それでも英語のリズムはだんだん身体になじんできて、集合場所へ行く朝の散歩のときの会話が楽しみになった。

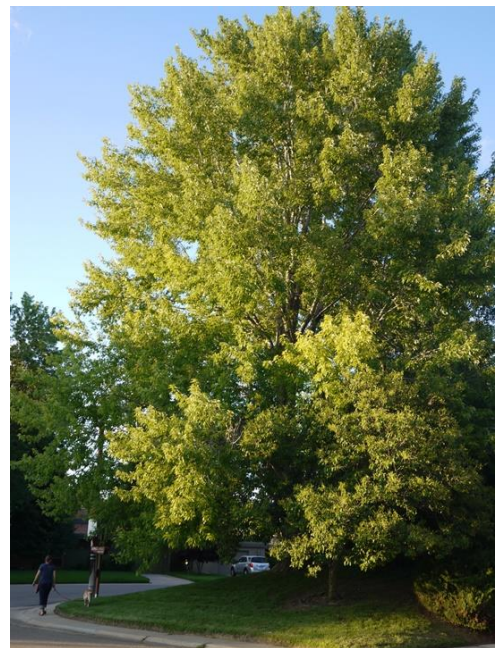


友達の庭でバーベキュー

食べ物に関してはずいぶんナチュラルな印象を受けた。オーガニックな野菜や製品が簡単に手に入るし、実際テイラー家では庭のハーブをふんだんに使ったシンプルな食事が多かった。何よりうらやましいのは無農薬でりんごやぶどうができることだ。蚊も少ないし、やはり標高が高く（1600メートル）乾燥してるからだろう。味付け

は各自で、（ハンバーガー店などでも）というのも徹底してておもしろい。それも個人の自由を尊重するアメリカだからなのだろう。

奥さんのミッシェルは南米のガテマラに両親がいて、だんなさんのマシューもアフリカのジンバブエで生まれたそうだ。一緒にピザを食べた友達はスウェーデンから来たそうだ。アメリカ人と言ったって出身はさまざまだ。しかも黒人の人たちやヒスパニック系、アジア系の人たちもいて、エリアも厳密に言えばそれぞれに分かれて暮らしている。なんと緊張をはらんだ社会なんだろうと思うが、それゆえ人々はあるなにもあいさつをかわし見知らぬ人にも笑顔を向けるのではないだろうか。人種の枠を本当の意味では超えられないかもしれないが、アメリカという自由の国でそれぞれを尊重しつつ快適に暮らすには人々の温かさがなにより大切で、そしてみんなはそれが自然に身についているように感じた。



住宅街の大きな木

普通の観光旅行じゃない貴重な旅ができたことに本当に感謝している。なにより違う文化を実際に体験することは、日本で暮らすことの意味をもう一度問い正してくれるように思った。もう少しいろいろなことに眼を向けてみようと思い始めている。

コロラドスタディツアーを終えて

社会人参加 石田 久美子

「いつか留学か、ホームステイをしてみたい」と思いながら、NHKのラジオ英会話を聴いたり、サボったりしていた私。

子供たちが独立し、夫婦共に退職した今、ようやく自分の時間が持てるようになり、夢に挑戦してみようと（さんざん迷った末に）決断しました。

そして今、素晴らしい体験ができたことへの感謝の気持ちでいっぱいです。

ホストファミリーは両手を広げて待っていてくれました。話題作りにしようと、私の家族や、家の中、庭、畑の写真を持って行きました。私の貧弱な英語を理解しようと、一心に耳を傾けてくれ、本当に家族の一員として扱ってもらいました。

三家族と過ごせたことも良い体験になりました。これからも折に触れ連絡を取り合い、交流を深めていきたいと思っています。

ジャン先生はいつも笑顔で、辛抱強く、温かく、楽しい授業をしてくれました。エルサルバドルから来ている人達と一緒に勉強したこともいい思い出です。

タカさんという最強(?)のツアーコンダクターがいて、思う存分コロラドを楽しむことができました。コロラドスプリングス、歴史博物館、ダイナソーリッジを見逃したので、M. E. Mトラベルで再訪したいです。

国際村のスタッフが細やかな気配りをしてくれるので、安心して過ごすことができました。おかげで100人分の芋煮汁を作るという大事業(?)も成功しましたね。

今回一緒になったRさん、I君、Yちゃん。年齢も、立場も、境遇も・・・何もかも違い過ぎるメンバーが(よくぞ)集まったもんですね。今は同世代との付き合いしかなないので、新鮮で、刺激的で本当に楽しい体験をすることができました。

このように素晴らしい体験ができる企画が定員に満たないのは、とても惜しい気がします。中学生、高校生などの若い人たちがもっと参加できたら、その先の長い人生にきっと良い影響を与えるでしょう。

期待をはるかに超える素晴らしい時間を過ごせたことに感謝します。
ありがとうございました。



ジャン先生はいつも笑顔です
終了証書を頂いて



スプリングインスティチュート前にて
怒涛の日々のコンダクター・タカさん



ああ、もつしえけのお！